



環境省LD-Tech認証制度の概要 及び前年度からの変更点

令和5年11月
2023年度環境省LD-Tech制度運営事務局



1. 環境省LD-Tech認証制度の概要 (P.2)
2. 前年度からの変更点 (P.7)

1. 環境省LD-Tech認証制度の概要

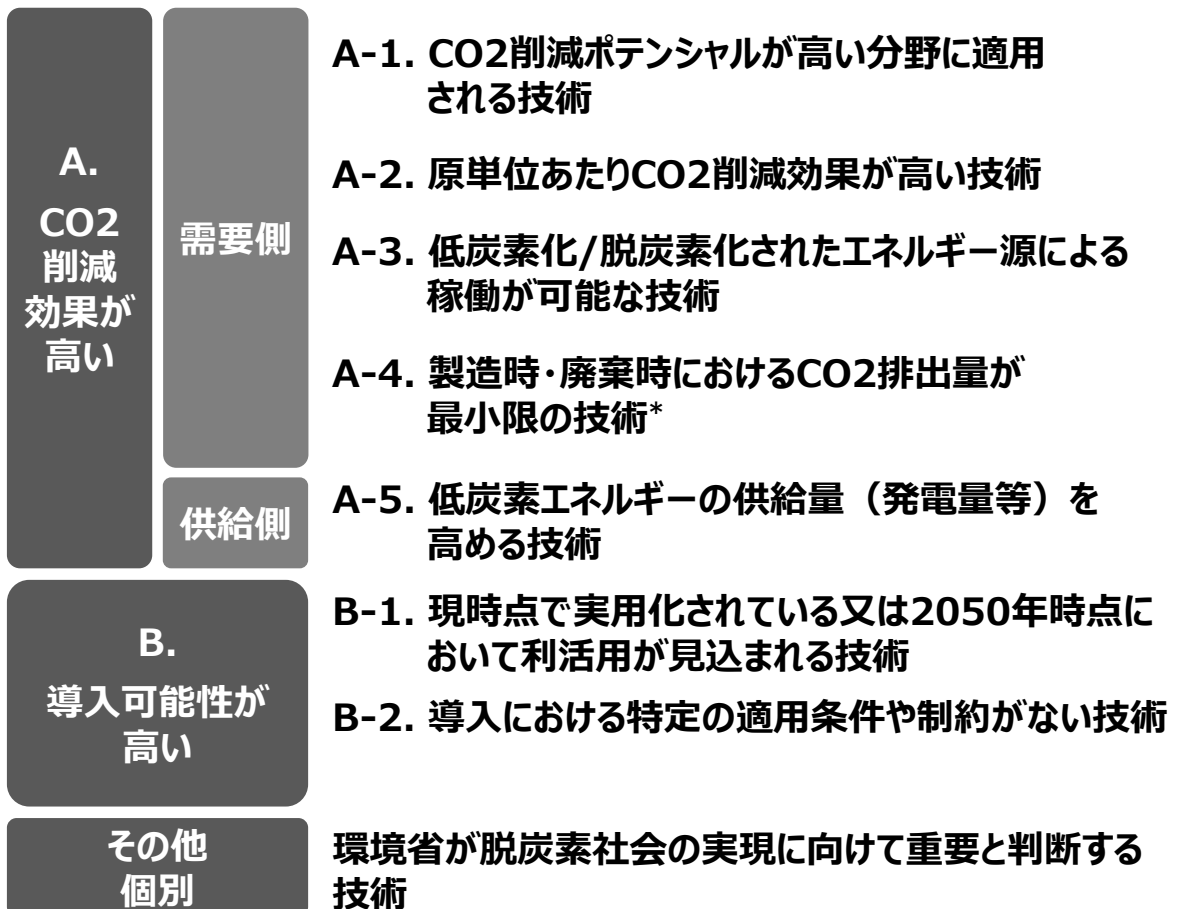
- 環境省LD-Techとは、2050年カーボンニュートラルに向けてエネルギー起源CO₂の排出削減に最大の効果をもたらす先導的な技術

環境省LD-Techとは (Leading Decarbonization Technology)

2050年カーボンニュートラルに向けて
エネルギー起源CO₂の排出削減に
最大の効果をもたらす先導的な技術

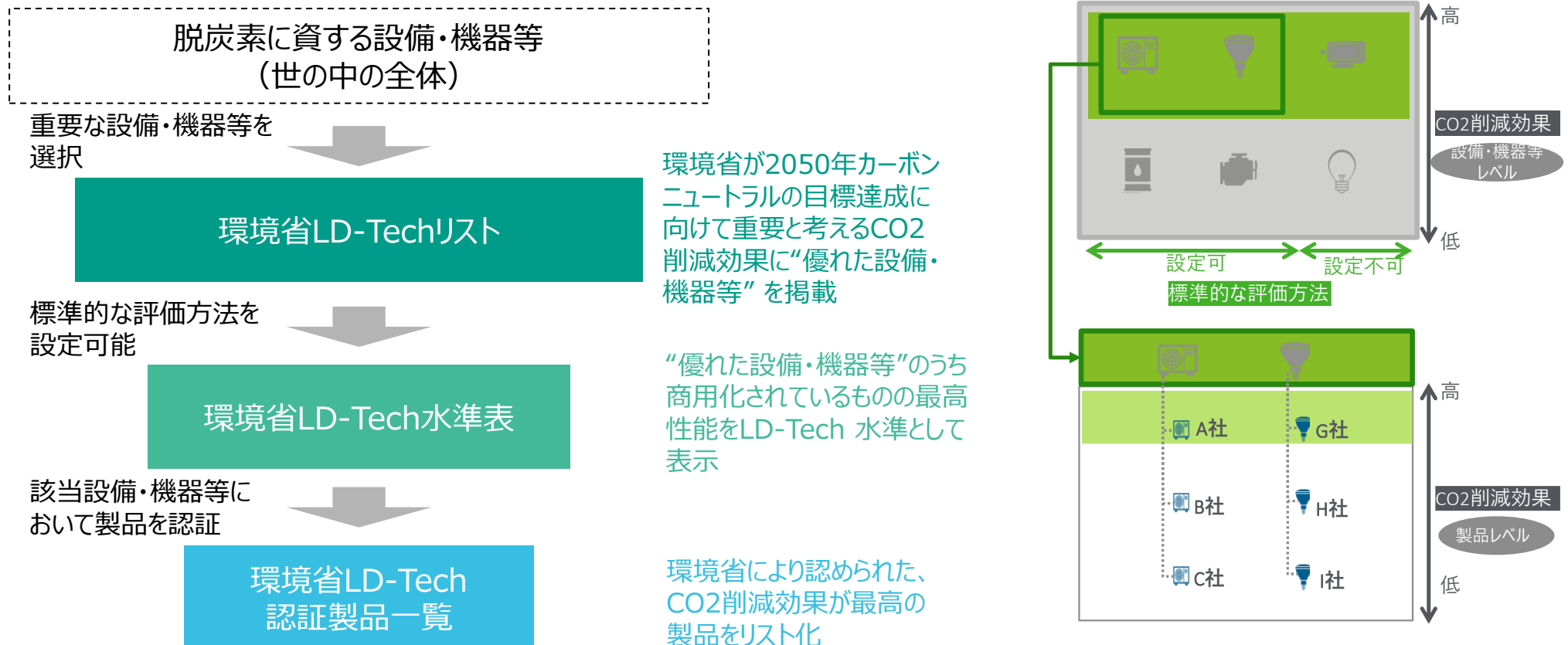
- “Leading”（先導的とは）
 - 当該設備・機器等に適用されている技術に先導性が認められる
 - 適用されている技術そのものに新規性はないが、技術の組合せや適用方法によって、先導性が認められる
 - “Decarbonization Technology”（脱炭素技術とは）
 - CO₂削減について最高の性能「LD-Tech水準」を有する設備・機器等
- ※ここでの「技術」には要素技術も含まれる
- ※「設備・機器等」とは、事業者や消費者が購入できる単位の、システム、設備・機器、部品等の総称

環境省LD-Techの要件



環境省LD-Tech認証制度の構成

- 「環境省LD-Techリスト」として、“脱炭素化の観点で優れた設備・機器等” を掲載する。
- 「環境省LD-Tech水準表」において、“脱炭素化の観点で優れた設備・機器等”のうち商用化されているものの最高性能を表示する。
- 「環境省LD-Tech認証製品一覧」によって、認証された製品のメーカー名と製品名を公表することで、積極的に認証製品の情報発信をする。



環境省LD-Tech認証制度の活用イメージ

- 環境省LD-Techリストの公開を通じて、脱炭素技術の開発・社会実装状況について、メーカーや研究機関等が参照し、今後の開発に向けた意思決定に役立てることができる。
- 環境省LD-Tech認証製品一覧の公開によって、企業や自治体の調達担当や設計士・ハウスメーカー等が、その年のCO2削減の最高性能を有する製品群をより容易に参照できる。

環境省LD-Tech
認証制度が有する機能

技術情報の整備

- LD-Techリスト
- LD-Tech水準表

CO2削減効果が最も高い製品群に関する情報発信

- LD-Tech水準表
- LD-Tech認証製品一覧

環境省事業や民間における取組等

投資を誘導

購買を誘導

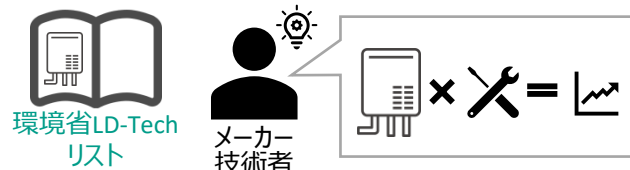
環境省LD-Tech認証制度の活用ケース例

2030年度GHG46%削減、2050年CN実現に向け、メーカーやユーザー等の行動を誘導

LD-Techリスト
記載技術の
開発・社会実装
促進

LD-Tech
認証製品の
市場普及

例：メーカーにおける脱炭素技術の開発が促進



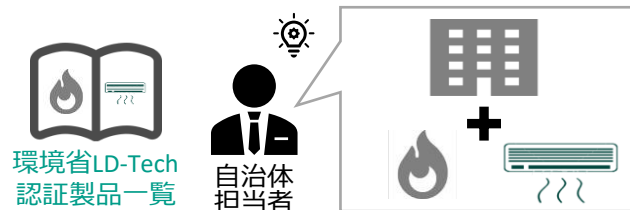
メーカー

リスト及び水準表掲載の設備・機器等や評価方法を参考にし、今後の脱炭素技術の開発に関する判断材料とする

株主、
金融機関

リスト及び水準表掲載の設備・機器等によるCO2削減効果等の情報を金融機関等が参照し、投資・融資の判断材料とする

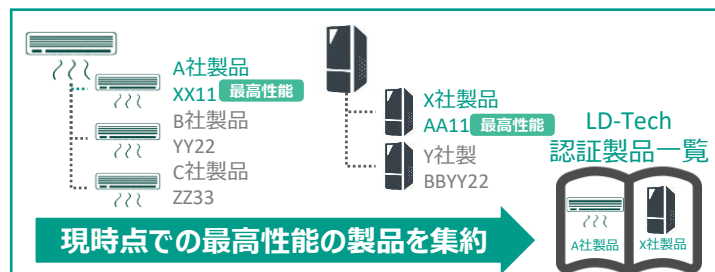
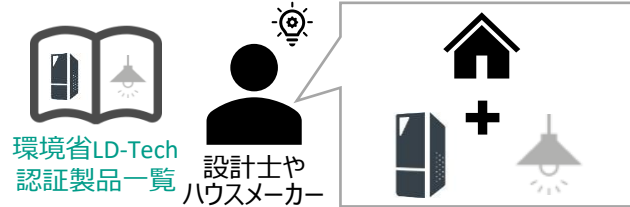
例：公共調達にて認証製品を採用



導入者・
販売者

認証製品一覧掲載の製品群を参照し、調達や顧客への提案を行うほか、脱炭素化に向けたアクションの参考とする

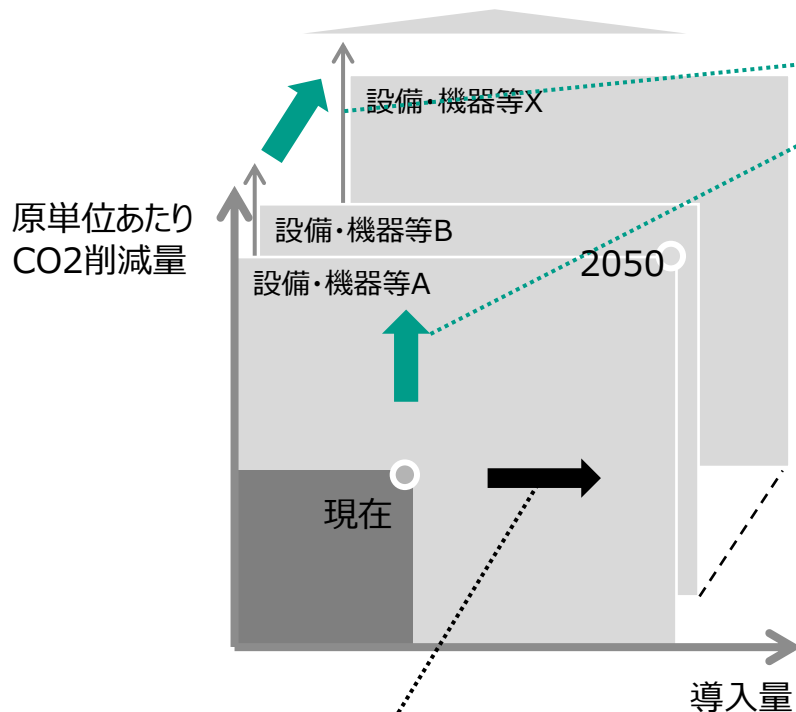
例：住宅にて認証製品を採用



環境省LD-Tech認証制度が目指す役割

- 環境省LD-Tech認証制度は「市場へのベストの見える化」「新たな設備・機器等の発掘」を担う。
- 認証製品に限らず、リスト掲載の技術（設備・機器等）全体を各種政策を通じて普及促進する。

2030年度GHG46%削減、2050年CN実現



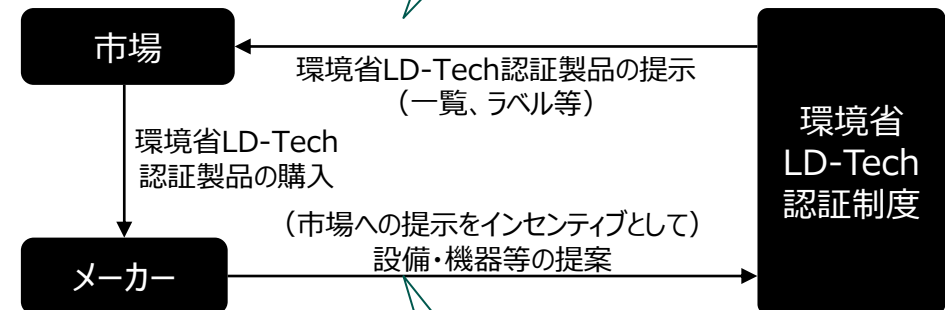
環境省LD-Tech認証製品一覧等を各種施策・事業で活用

認証製品に限らず、リスト掲載の技術（設備・機器等）の全体を各種政策を通じて普及促進する

環境省LD-Tech認証制度が目指す役割

A 市場へのベストの見える化、メーカーのベストの追及促進

認証を通じて市場に最高性能を有する製品群を示し、利用を促進し、メーカーにベストの性能の追及を促す



B 新たな（埋もれた）設備・機器等（技術カテゴリ）の発掘

環境省LD-Tech認証のメリットがインセンティブとなり、メーカーから新たな設備・機器等を提案を受ける

また、評価方法が確立されていない設備・機器等において、評価方法の提案を受ける

2. 前年度からの変更点

- 2023年7～9月にかけて個社及び業界団体からの情報提供や有識者からの御意見を参考に更新した、環境省LD-Techリスト（案）及び水準表（案）の記載内容（クラスの新規追加、LD-Tech水準の見直し等）について、意見募集を実施した。
- なお、本意見募集は、環境省LD-Tech認証製品一覧の策定に向けた情報収集ではない点にご留意頂きたい。（環境省LD-Tech認証製品一覧の策定に向けた情報収集は、2023年12月中旬を目途に募集開始予定）

今回の意見募集対象

環境省LD-Techリスト

脱炭素に向けて重要と位置付ける **設備・機器等（技術カテゴリ）を一覧化**

- 掲載項目（一例）
 - 設備・機器等の名称
 - 当該技術の「原理・仕組み」
 - 技術成熟度 他

今回の意見募集対象

環境省LD-Tech水準表

リスト掲載済の設備・機器等について、その市場セグメントごとに区分し、**各区分における当該年の省CO2・脱炭素性能の最高値（LD-Tech水準）を一覧化**

- 掲載項目（一例）
 - 設備・機器等の名称
 - 認証対象クラス
 - LD-Tech水準
 - 性能を示す測定単位、計算方法、試験条件

2023年12月中旬を目途に募集予定

環境省LD-Tech認証製品一覧

水準表掲載の**LD-Tech水準に適合する性能を有する製品型番を一覧化**

- 掲載項目（一例）
 - 製品型番
 - 製造・販売メーカー
 - 性能値 他

リスト類の更新に向けた各種取組み

- リスト/水準表/認証製品一覧は、メーカー等からの募集を通じて毎年更新される。
- 本意見募集では、リスト案及び水準表案の掲載情報に関する**正誤の確認**や、**最新情報への更新**に関する意見を対象とする。
- 設備・機器等（技術カテゴリ）の新規追加や、認証対象の拡大に向けたクラス追加等は、「リスト及び水準表の拡充・更新に関する提案募集」にて実施済である。
(今年度内に、次年度のリスト及び水準表の作成に向けた提案募集を実施予定)

環境省LD-Tech認証制度における
各種一般募集の取組み

環境省LD-Tech
リスト

環境省LD-Tech
水準表

環境省LD-Tech
認証製品一覧

リスト及び水準表の
拡充・更新に関する提案募集

拡充・更新

拡充・更新

リスト（案）及び水準表（案）の
更新に関する意見募集
（今回の対象）

更新のみ

更新のみ

更新点はP.10~11

更新点はP.12~18

環境省LD-Tech製品情報の募集

審査・認証

リストの更新・拡充（1/2）

- 今年度は、個社から情報提供を踏まえ、「温水機（水素焚き）」及び「熱回収式スクロール形圧縮機」がリストに追加されることになり、その概要は以下のとおりある。
- また、該当設備・機器は、水準表(案)へも同時追加されることとなった。

「2023年度環境省LD-Techリスト案」の主な変更点

No	区分			概要	
	部門1	部門2	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ
L-000261	産業・業務 (業種共通)	給湯	ボイラ	温水機（水素焚き）	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。また、通常の温水機と異なり、水素焚きの場合、水素用超低NOxバーナ、水素用安全装置、水素焚専用缶体を搭載している。水素の燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。燃料となる水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2を排出しない。
L-000262	産業・業務 (業種共通)	動力他	その他	熱回収式スクロール形圧縮機	従来廃棄される圧縮熱を温水として供給可能な熱回収式圧縮機のうち、圧縮方式がスクロール形のもの。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために、軟水装置から新水を通させ、温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水を利用することも可能。

リストの更新・拡充 (2/2)

- 前年度まで掲載していた「平均使用年数」について、記載内容を踏まえ「法定耐用年数」に修正。

「2023年度環境省LD-Techリスト案」の主な変更点 (赤字部分)

項目	主な記載内容
技術成熟度	<p>設備・機器等の技術成熟度 (TRL) をレベル1 (基礎研究) からレベル8 (量産化/水平展開) で記載。</p> <p>各設備・機器等の製品カタログ及び性能値又は実証実験のプレスリリース、技術開発動向等を参照し、「CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業におけるTRL (技術成熟度) の定義一覧」を踏まえ評価。</p> <p>なお、技術成熟度 (TRL) がレベル4 (実用研究フェーズ) 以上である設備・機器を環境省LD-Techリストへの掲載要件の一つとする。</p> <p>※参照：環境省 TRL 計算ツール利用マニュアル<第二版> (右図)</p>
法定耐用年数	<p>設備・機器等の次期更新における参考情報として法定耐用年数を記載。主として「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」に基づき、各設備・機器等の法定耐用年数を事務局調査に基づき記載。</p> <p>※参照：国税庁 減価償却資産の耐用年数等に関する省令 (令和二年財務省令第二十六号による改正)</p>
温暖化対策計画の該当箇所	<p>「地球温暖化対策計画」の本文及び別表内において、当該設備・機器等に関する掲載がある場合、その該当箇所を「該当頁又は表_見出し名」として記載。</p> <p>※参照：環境省 地球温暖化対策計画 (令和3年10月22日閣議決定)</p>

表 1 CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業における TRL (技術成熟度) の定義一覧

レベル	定義	開始時の状況	アウトプット	実績/進捗	フェーズ
8	製造・導入プロセスを含め、開発機器・システムの改良が完了しており、製品の量産化又はモデルの水平展開の段階となっている。	最終製品/最終地域モデルの性能の把握	最終製品/最終地域モデル	-	量産化/水平展開
7	機器・システムが最終化され、製造・導入プロセスを含め、実際の導入環境における実証が完了している。	実用型プロトタイプの実証段階での性能の把握	-	実際の導入環境	フィールド実証
6	機器・システムの実用型プロトタイプ/実用型地域モデルが、実際の導入環境において実証されており、量産化/水平展開に向けた具体的なスケジュール等が確定している。	実用型プロトタイプの基本性能の把握	実用型プロトタイプ/実用型地域モデル	実際の導入環境	模擬実証
5	機器・システムの実用型プロトタイプ/実用型地域モデルが、実際の導入環境に近い状態で実証されており、量産化/水平展開に十分な条件が理論的に満たされている。	限定的なプロトタイプでの性能の把握	-	実験室・工場	実用研究
4	主要な構成要素が限定的なプロトタイプ/限定的な地域モデルが機器・システムとして機能することが確認されており、量産化/水平展開に向け必要となる基礎情報が取得されている。	試作部品/限定的な地域モデルの性能の把握	限定されたプロトタイプ/限定的な地域モデル	-	応用研究
3	主要な構成要素の性能に関する研究・実験が実施されており、量産化/水平展開に関するコスト等の分析が行われている。	主要な構成要素の性能の検証	主要な構成要素の試作部品/試験的モデル	-	応用研究
2	何らかの性能の目標値が設定されており、実際の技術開発に向けた情報収集や分析が実施されている。	要素技術の基本性能の把握	報告書・分析レポート等	-	基礎研究
1	要素技術の基本的な特性に関する論文研究やレポーティング等が完了しており、基礎研究から応用研究への展開が行われている。	基本原理の明確化	論文・報告書等	-	基礎研究

- 環境省LD-Techに関する設備・機器等の提案募集（募集期間：2023年7月～9月上旬）の結果を踏まえ、一部の設備・機器等について水準表のクラス追加を行った。
- LD-Tech水準（最高性能）は、前年度認証製品の性能等を基に、各種事務局調査により一部更新を実施した。
- LD-Tech水準（最高性能）に変更があったクラスは、水準表（案）内にて赤字で掲載している。
- なお、一部調査中となっているLD-Tech水準（最高性能）については、12月中旬に公表見込であるリスト及び水準表の確定版にて掲載予定である。

詳細は本資料13-18頁を参照

「2023年度環境省LD-Tech水準表（案）」の主な変更点（1/2）

緑字：今年度水準表（案）にて更新・拡充した箇所



水準表クラス No.	区分 技術分類	概要 設備・機器等	クラス		
			条件	能力（名称）	能力（単位）
S-260033 S-260034 S-260035 S-260036 S-260037 S-260038	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	デシカント空調システム	固体（乾式）、デシカント1ロータのみ、電気ヒートポンプと未利用熱（重複）利用	最大処理風量	4,000m ³ /h以下 4,000m ³ /h超6,000m ³ /h以下 6,000m ³ /h超7,500m ³ /h以下 7,500m ³ /h超9,000m ³ /h以下 9,000m ³ /h超10,500m ³ /h以下 10,500m ³ /h超
S-260039 S-260040 S-260041 S-260042 S-260043 S-260044	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	デシカント空調システム	固体（乾式）、デシカント1ロータのみ、未利用熱・再エネ熱利用	最大処理風量	3,500m ³ /h以下 3,500m ³ /h超6,000m ³ /h以下 6,000m ³ /h超7,500m ³ /h以下 7,500m ³ /h超9,000m ³ /h以下 9,000m ³ /h超12,000m ³ /h以下 12,000m ³ /h超
S-261001	ボイラ	温水機（水素焚き）	—	—	—
S-055035 S-055036	冷凍冷蔵機器	自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	中温用（吸込み圧力飽和温度-10℃）、吸込ガス温度18℃、空冷式の凝縮器、凝縮器に流入空気温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	36.0kW超50.0kW以下※ 50.0kW超※ ※：クラスの細分化に伴い、「36.0kW超」（クラスNo. S-0055013）は廃止
S-055037 S-055038	冷凍冷蔵機器	自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	低温用（吸込み圧力飽和温度-40℃）、吸込ガス温度18℃、空冷式の凝縮器、凝縮器に流入空気温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	18.0kW超24.0kW以下※ 24.0kW超※ ※：クラスの細分化に伴い、「18.0kW超」（クラスNo. S-055026）は廃止

「2023年度環境省LD-Tech水準表（案）」の主な変更点（2/2）

緑字：今年度水準表（案）にて更新・拡充した箇所



水準表クラス No.	区分	概要 設備・機器等	クラス		
	技術分類		条件	能力（名称）	能力（単位）
S-073001 S-073002 S-073003	工業炉	リジエネレイティブバーナ	ツインリジエネバーナ (セミ) セルフリジエネバーナ ラジアントリジエネバーナ	-	-
S-262001	その他	熱回収式スクロール形 圧縮機	オイルフリー式	容量、熱回収量	15kW、14kW

水準表クラス No.	区分	概要 設備・機器等	指標			
	技術分類		測定単位	測定単位（名称）	計算方法：計算式	試験条件：説明
S-096001	その他	二流体加湿器	NL/min	ノルマルリッター/毎分 (体積流量)	試験条件によって計測した空気流量V0 (L/min) は、空気温度T0 (°C)、空気圧力P0 (MPa) の状態での値であるため、学術的な基準状態であるV1 (NL/min) を、温度0 (°C)、相対湿度 (0%)、標準大気圧時 (圧力1気圧 = 0.1013MPa) の値に、ボイル・シャルルの法則を用いて換算する。なお、換算式は、 $V1 = V0 \times \left(\frac{273}{273 + T0} \right) \times \left(\frac{0.1013 + P0}{0.1013} \right)$ とする。 次に、噴霧水量Q0 (L/min) に対して、代表点として、有効加湿量10kg/hに必要な噴霧水量Q2 (L/min) を求め、そのときの必要な空気流量V2 (NL/min) を式から換算する。なお、換算式は、 $V2 = V1 \times \left(\frac{Q2}{Q0} \right)$ とする。	工場に設置されたエアコンプレッサから高圧 (0.6MPa程度)、かつ乾燥空気 (相対湿度0%) が供給され、二流体加湿器のミストノズルに必要な圧力まで減圧された流入空気に対し、ミストノズルの1次側において、空気温度T0 (°C)、空気圧力P0 (MPa)、空気流量V0 (L/min) を超音波流量計によって体積流量を計測する。なお、P0はゲージ圧を計測する。 ミストノズルは、同じザウター平均粒子径のミストを噴霧する場合でも、ノズルごとに使用する空気圧は異なるため、空気圧力P0 (MPa) のとき、ザウター平均粒子径10μmを噴霧することを条件とし、供給する水の流量として、噴霧水量Q0 (L/min) を計測する。

「2023年度環境省LD-Tech水準表（案）」にて水準値更新のあったクラス（1/4）



水準表クラス No.	区分	概要 設備・機器等	クラス			LD-Tech 水準	測定単位	
	技術分類		条件	能力 (名称)	能力 (単位)		単位	名称
S-001012	空調機 (ヒートポンプ・個別 方式)	ガスヒートポンプ	寒冷地仕様	相当馬力数	7.5HP超10HP 以下	1.28	-	COPp
S-001013			寒冷地仕様	相当馬力数	10HP超16HP 以下	1.47	-	COPp
S-001014			寒冷地仕様	相当馬力数	16HP超25HP 以下	1.38	-	COPp
S-001024			発電機付	相当馬力数	16HP超25HP 以下	1.38	-	COPp
S-001028			発電機付	相当馬力数	10HP超16HP 以下	2.09	-	期間成績係数 (APFp)
S-003007	空調機 (ヒートポンプ・個別 方式)	パッケージエアコン（設備用）	-	冷房能力	140kW超	3.6	-	通年エネルギー 消費効率 (APF)
S-004002	空調機 (ヒートポンプ・個別 方式)	パッケージエアコン（ビル用マルチ）	-	冷房能力	56.0kW超 69.0kW以下	6.7	-	通年エネルギー 消費効率 (APF)
S-004004			-	冷房能力	80.0kW超 90.0kW以下	6.7	-	通年エネルギー 消費効率 (APF)
S-004005			-	冷房能力	90.0kW超	6.7	-	通年エネルギー 消費効率 (APF)
S-008007	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央 方式)	フロン類等冷媒ターボ冷凍機	-	冷却能力	500RT以上 600RT未満	9.6	-	期間成績係数 (IPLV)
S-008010			-	冷却能力	1000RT以上 1500RT未満	9.6	-	期間成績係数 (IPLV)
S-010016	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央 方式)	水冷ヒートポンプチラー	-	冷却能力	150.0kW超 180.0kW以下	5.15	-	成績係数 (COP)

「2023年度環境省LD-Tech水準表（案）」にて水準値更新のあったクラス（2/4）

水準表クラス No.	区分	概要	クラス			LD-Tech 水準	測定単位	
	技術分類	設備・機器等	条件	能力 (名称)	能力 (単位)		単位	名称
S-010012	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央 方式)	水冷ヒートポンプチラー	ブライン仕様、ブ ライン入口温度0℃、 ブライン出口温度- 5℃	冷却能力	180.0kW超 500.0kW以下	3.63	-	成績係数 (COP)
S-011004			-	冷却能力	37.5kW超 50.0kW以下	5.2	-	期間成績係数 (IPLV)
S-011079			冷房専用	冷却能力	37.5kW超 50.0kW以下	5.2	-	期間成績係数 (IPLV)
S-011081			冷房専用	冷却能力	60.0kW超 90.0kW以下	6.1	-	期間成績係数 (IPLV)
S-260013	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央 方式)	デシカント空調システム	固体（乾式）、全 熱交換機あり、再 生熱源：電気ヒー トポンプ	最大処理風量	4,000m3/h以下	11.7	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260014			固体（乾式）、全 熱交換機あり、再 生熱源：電気ヒー トポンプ	最大処理風量	4,000m3/h超 6,000m3/h以下	12.9	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260015			固体（乾式）、全 熱交換機あり、再 生熱源：電気ヒー トポンプ	最大処理風量	6,000m3/h超 8,000m3/h以下	12.5	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260016			固体（乾式）、全 熱交換機あり、再 生熱源：電気ヒー トポンプ	最大処理風量	8,000m3/h超 10,000m3/h以 下	11.7	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260017			固体（乾式）、全 熱交換機あり、再 生熱源：電気ヒー トポンプ	最大処理風量	10,000m3/h超	11.5	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260020			固体（乾式）、熱 交換機一体型	最大処理風量	250m3/h超 500m3以下	5.16	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量

「2023年度環境省LD-Tech水準表（案）」にて水準値更新のあったクラス（3/4）



水準表クラス No.	区分	概要	クラス			LD-Tech 水準	測定単位	
	技術分類	設備・機器等	条件	能力 (名称)	能力 (単位)		単位	名称
S-260021	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央 方式)	デシカント空調システム	固体（乾式）、 熱交換器一体型	最大処理風量	500m3/h超 1,000m3以下	4.46	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260022			固体（乾式）、 熱交換器一体型	最大処理風量	1,000m3/h超 1,500m3以下	5.15	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260023			固体（乾式）、 熱交換器一体型	最大処理風量	1,500m3/h超	5.15	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260024			液体（湿式）、 再生熱源：水冷 式ヒートポンプ、ガス 温水器	最大処理風量	1,500m3/h以下	5	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260025			液体（湿式）、 再生熱源：水冷 式ヒートポンプ、ガス 温水器	最大処理風量	1,500m3/h超 3,000m3/h 以下	4.5	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260026			液体（湿式）、 再生熱源：水冷 式ヒートポンプ、ガス 温水器	最大処理風量	3,000m3/h超 6,000m3/h 以下	4.6	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-260027			液体（湿式）、 再生熱源：水冷 式ヒートポンプ、ガス 温水器	最大処理風量	6,000m3/h超	4.6	kg/h/kW	除湿冷房 消費電力 あたり除湿量
S-033002	熱源 (ヒートポンプ)	蒸気発生ヒートポンプ (水熱源・一過式)	蒸気圧力 0.1MPaG、熱源 水入口温度80℃、 熱源水出口温度 70℃	-	-	3.5	-	成績係数 (COP)
S-037006	電気系給湯器	ヒートポンプ給湯機（空気熱源）	-	加熱能力	50kW超	3.9	-	年間標準貯湯 加熱エネルギー 消費効率

「2023年度環境省LD-Tech水準表（案）」にて水準値更新のあったクラス（4/4）

水準表クラス No.	区分	概要	クラス			LD-Tech 水準	測定単位	
	技術分類	設備・機器等	条件	能力 (名称)	能力 (単位)		単位	名称
S-040007	ボイラ	温水機	潜熱回収型、都市ガス13A焚き	出力	1000kW未満	105.2	%	ボイラ効率
S-046022	コージェネレーション	ガスエンジンコージェネレーション	50Hz、高速エンジン（1000rpm以上）	発電出力	2000kW超 3000kW以下	44.5	%	発電効率
S-047039			50Hz、希薄予混合燃焼方式	発電出力	5,000kW超 7,000kW以下	85.2	%	総合効率
S-047040			50Hz、希薄予混合燃焼方式	発電出力	7,000kW超 10,000kW以下	85.3	%	総合効率
S-047070			60Hz、希薄予混合燃焼方式	発電出力	7,000kW超 10,000kW以下	85.3	%	総合効率
S-196002	電気系給湯器	太陽熱集熱器対応型エコキュート	一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	3.3	-	年間給湯保温効率（太陽熱部分除く）
S-207002	燃料電池	固体酸化物形燃料電池（SOFC）設備	-	出力	200kW超 250kW以下	65	%	発電効率
S-210001	太陽光発電	太陽電池（シリコン系・単結晶）	-	-	-	22.9	%	セル実効変換効率
S-227022	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	100℃以上 120℃未満、 400V/440V	出力	45kW以上 100kW未満	7.8	%	送電端 発電効率

